

ネットワーク資料保存 第139号 2025年7月

日本図書館協会
資料保存委員会

カビ被害から考える資料保存と省エネの両立—設備担当者と連携した空調運用の可能性

能勢 美紀(日本貿易振興機構
アジア経済研究所学術情報センター)

はじめに

アジア経済研究所(以下、アジ研)図書館は、途上国に関する社会科学関係資料を専門に収集・保存する専門図書館である。アジ研図書館は、貴重かつ重要な途上国資料を後世にひき継ぎ、その利用を保障するために、現地で刊行された途上国資料や、日本の旧植民地関係の資料をはじめとするコレクションの保存に高い責任を負っている。紙資料やマイクロフィルム、視聴覚資料など多様な媒体を長期保存するには、空調による温湿度管理が欠かせない。一方で、エネルギー削減の要請や設備の老朽化により、空調管理は複雑な課題となっている。ここでは、アジ研図書館において 2023 年度から 2024 年度にかけて発生したカビ被害の事例をもとに、持続可能な空調運用の在り方を検討する。

カビ被害の発生

2023 年 10 月に最初に確認されたカビ被害は、翌年 4 月までに全館へと拡大した。原因の一つと考えられるのが、2023 年 7 月から実施された空調の部分停止と稼働時間の短縮である。

アジ研では、建物および空調設備の老朽化に加え、省エネ要請により、図書館 5 層(地上 1 階から 4 階と、グレーチング床で 4 階部分とつながる中 4 階)のうち 3・4 階部分の空調が停止され、空調が

稼働する 1・2 階部分についても稼働時間の短縮(9 時頃～16 時頃)が行われていた。なお、図書館は 1 階から 4 階の中央部分が吹き抜けとなっており、中 4 階は 4 階と空調吹出口を共有している。



空調の停止や稼働時間の短縮により、特に空調停止階である 3・4 階は、夏は暑さのため、そして冬は寒さのために作業が難しいほどになった。実は、空調が停止された当初は青焼き資料などへの影響や、温湿度変化による紙の劣化を懸念しており、カビの発生については予想外であった。カビの発育に適した湿度は 65% 以上であると言われており、書庫の湿度は 65% を目安に管理される¹⁾。しかし、データロガー等の計測値では湿度が 65% を超えていない地点も多く、空調停止とカビの関連性は明確でなかった。

とはいえ、空調の停止とカビの発生時期が重なることや、それまでと大きく違う変化は空調の運転方法だけであったため、空調の停止によるカビ発生の

CONTENTS

カビ被害から考える資料保存と省エネの両立—設備担当者と連携した空調運用の可能性・能勢美紀	1
資料紹介『書物の世界に生きる 安江明夫著作集』	小林直子 4
2023 年度都道府県立図書館の「県」域内市町村立図書館への図書資料の保存の取組	
—図書館ホームページから 上 取組を行っている、計画にある「県」	鬼倉正敏 5
コラム 古文書、地域資料の保存や活用	7

メカニズムについて情報収集するとともに検討を続ける日々が続いた。空調の運転再開に際してはカビ発生メカニズムを理論的に説明し、どのような運転を行えばカビの発生を防げるのかについて具体的な提案をすることが求められていると感じたからだ。

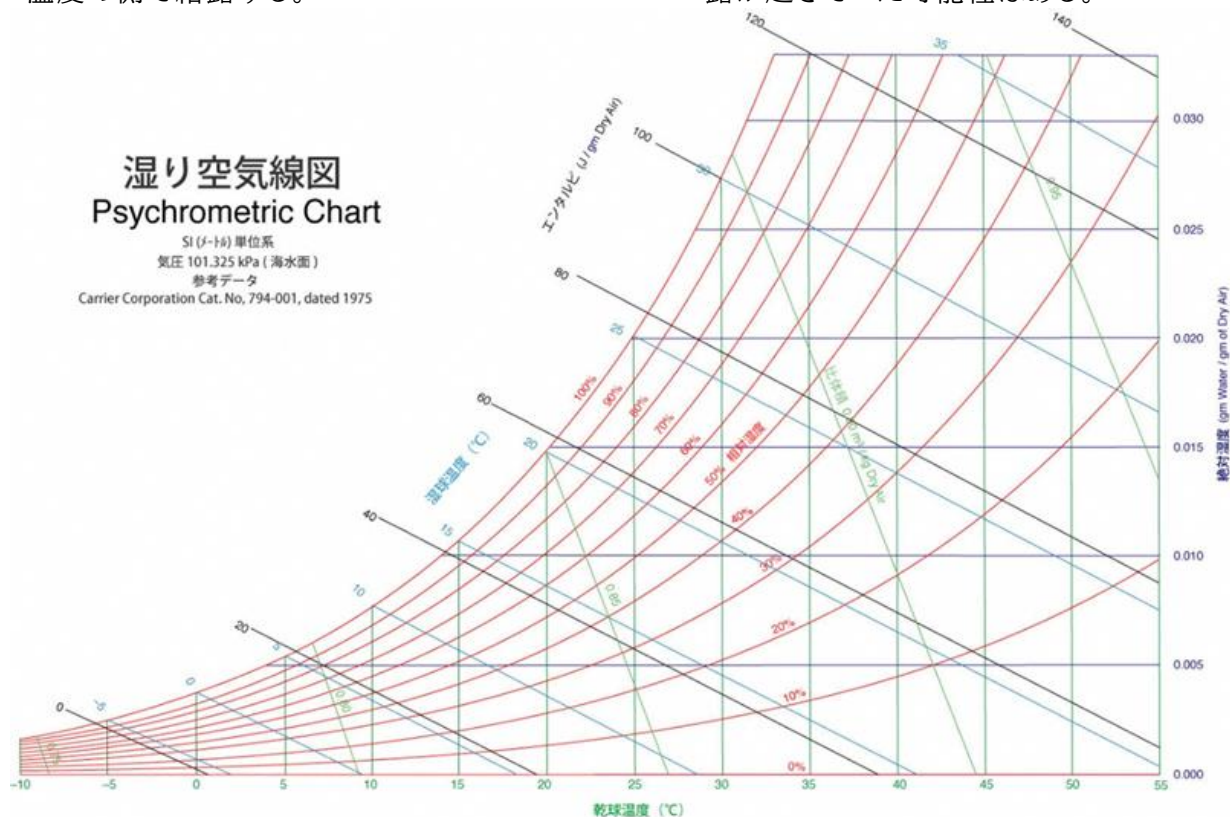
原因の考察

アジ研では2020年にも換気による結露が原因とみられるカビ被害を経験したⁱⁱ。今回も結露が原因と考え、温度差による高湿化に注目した。

水蒸気には空間内で均一になろうとする性質があり、わずかな隙間さえあれば移動することができる。温度も同じような性質があるが、水蒸気が均一になろうとする速度は温度が均一になろうとする速度よりも速い。水蒸気は温度が高いほど多く空気中に存在することができ、同じ水分量であれば、温度が下がるとその差分が気体から液体になり結露する。つまり、水蒸気の方が早く均一になるため、空間の水分量がほとんど変わらない状態で、大きな温度差のあるエリアが複数存在する場合、空気中に取り込める水分量（飽和水蒸気量）が少ない、低い温度の側で結露する。

アジ研図書館では、2023年7月から2024年4月まで、3・4階の空調が停止される一方で、1・2階は稼働していた。温度の移動は比較的緩慢であるため、空調の稼働している1・2階と、稼働していない3階以上との間には大きな温度差が生じる一方、水蒸気の均一化は速やかに行われるため、1・2階で、結露あるいは部分的に非常に湿度の高い状態にあったと考えられる。

この点について、便宜的に最も温度差のある4階と1階のそれぞれ1地点を対象に、盛夏である8月と厳冬である2月の各月1日の温湿度データをもとに湿り空気線図を利用して簡易な検討を行ってみた。湿り空気線図は、温度と相対湿度、および絶対湿度の関係を表しており、温度変化が起きた際に、相対湿度がどのように変化するのかがわかる。結果、夏期においては、温湿度計の数字は1階の湿度は55%であるが、温かい空気と冷たい空気が直接ぶつかる2階と3階の吹き抜け付近をはじめ、部分的に湿度80%以上になっていた可能性が高いことがわかった。冬期は逆のことが起きていたと考えられるが、今回の分析からは結露を示唆する明確な値は得られなかった。もちろん、部分的な結露が起きていた可能性はある。ⁱⁱⁱ



出典：Arthur Ogawa, <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:PsychrometricChart-SeaLevel-SI.jpg> (Public Domain)

事例からの示唆

今回の事例は、空調の部分的な稼働がカビのリスクを高めることを示唆している。結露によるカビ被害を生じさせないためには、一つの空間内で温度を可

能な限り一定にすることが非常に重要である。また、紙には周囲の水分を吸収・放出することで、周囲の湿度と同じになろうとする性質があるが、乾湿を繰り返すと、次第に固くなり、柔軟性を失って劣化してし

まう。このことから、温湿度の安定はカビ防止のみならず保存全体に寄与する。

とはいえ、空調で一定の温湿度を維持するには、多大なエネルギーを必要とする。空調の過剰使用は環境負荷を高め、地球温暖化を助長する可能性もある。省エネルギーと資料保存の両立のためには、空調停止時間中と稼働時の温度差を極力小さくし、空間内の温度の均一化を図る必要がある。設備や建材の条件によって最適な運転方法は異なるため、資料保存に携わる職員と設備担当者が協働し、持続可能な空調運用を検討することが重要である。

設備関係者との協働

資料保存において空調の利用はほとんど不可欠であるため、資料保存にあたっては設備担当者の理解を得るための情報発信と、ある程度の化学的根拠に基づいた提案ができるかが協働の鍵になる。しかし、この点において苦勞されている機関は少なくないのではないか。アジ研図書館においてもカビの発生原因がはっきりせず、また紙の劣化も比較的長い時間の中で起こるため、当初は理解を得るのが難しかった。

2025 年 6 月から熱中症対策が義務化されたが、アジ研図書館では、上記カビ被害についての考察をもとに、具体的な提案を行う準備をしている。環境省が熱中症予防の目安とする室温 28℃(エアコンの設定温度が 28℃ではない)^{iv}を超えないような空調の運用と、カビの発生を予防するための湿度 65%を目標とした空調の運用は、熱中症対策と資料保存の双方に対応する指標であり、設備担当と図書館員の知見を活かした協働の契機となり得る。

湿度 65%を目標、という、カビの発生を懸念する声もあるかもしれない。確かにカビには湿度 60%で発生するものもある。カビは温度、酸素、水素イオン濃度、湿度、栄養分の条件がそろって発生する。このうち、温度、酸素、水素イオン濃度は、人間が暮らせる条件を維持すれば、カビも生育することが可能である^v。また、資料を構成する紙や皮革、布などの基材そのものがカビの栄養分であるため、従来、カビの予防に対しては湿度管理が重視されてきた。

ただ、確かに資料自体がカビの栄養になるが、カビにとってより「好ましい」栄養は虫の死骸や塵埃である。特に「ほこり」の中には無数のダニの死骸があり、カビにとっては格好の栄養分となる。このため、こまめな見回りと清掃により、これを取り除くことは大きな予防効果が期待できる。

また、湿度 60%で発生するカビがあるとはいえ、カビの発育に適した湿度は 65%以上で、湿度

60%であれば、目に見えるほどにカビが育つまでには相当の期間がかかる。空調により湿度を可能な限り 65%以下に抑えつつ、こまめに清掃を行うことで、省エネを意識した空調運転でもカビを制御できると期待される。アジ研図書館でも、この点は今夏の課題である。

おわりに

資料保存と省エネという一見両立の難しい課題のあいだで、図書館は今、持続可能な管理体制の再構築をせまられている。

地球環境保護のための省エネの要請は世界的な潮流であり、図書館もそれに応えていく必要がある。一方で、省エネ要請に対して単なる空調の稼働停止によって応えるのではなく、空調設備や建物の構造に詳しい担当者とともに、資料保存担当者の側からも働きかけ、館内空間の一体的な把握、そして資料の長期保存の視点からの体制を検討し、構築しなければならない。

アジ研図書館におけるカビ被害とそこから得られた資料保存と両立できる空調の運転方法についての示唆、設備関係者と協働できる体制を作るための取り組みなどが、資料を保存する多くの機関の参考になれば幸いである。

i 国立国会図書館 資料の保存 所蔵資料の保存 温湿度管理

[https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/collecti
oncare/humiditycontrol.html](https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/collecti
oncare/humiditycontrol.html)

ii 詳細は以下の記事を参照。能勢美紀(2021)「感染症対策と資料保存の両立——換気の意外な悪影響と図書館の対応」、ライブラリアン・コラム

[https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Colu
mn/2021/0430.html](https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Colu
mn/2021/0430.html)

iii 詳細は以下の記事を参照。能勢美紀(2025)「資料を守るライブラリアン——省エネしつつ、カビを防ぐ」、ライブラリアン・コラム

[https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Colu
mn/2025/0217.html](https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Colu
mn/2025/0217.html)

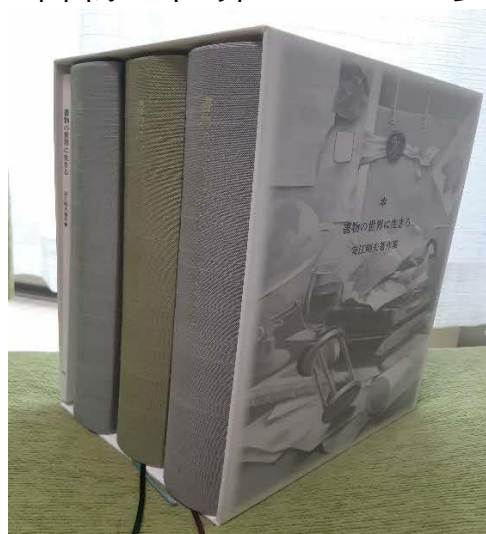
iv 環境省環境保健部環境安全課(2022)『熱中症環境保健マニュアル 2022』、p. 32

[https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/manual/heat
illness_manual_full_high.pdf](https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/manual/heat
illness_manual_full_high.pdf)

v 日本図書館協会資料保存委員会編(2021)『やってみよう資料保存』、p.16

文部科学省「カビ対策マニュアル(平成 20 年 10 月 28 日)」、基礎編 2. カビの生理生態と生育環境
[https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa
/sonota/003/houkoku/08111918/002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa
/sonota/003/houkoku/08111918/002.htm)

『書物の世界に生きる 安江明夫著作集』全 3 巻+別巻



- 出版者：安江いずみ
- 出版年：2024.10
- 頁数：1 巻 x, 692p
2 巻 vi, 675p
3 巻 v, 669p
別巻 86p

●【内容】

- 第 1 巻：1969 年～1990 年
- 第 2 巻：1991 年～2010 年
- 第 3 巻：2011 年～2022 年
- 別巻：書誌・索引

日本の図書館界における資料保存の草分けで、本誌編集元である JLA 資料保存委員会の生みの親にして初代委員長「安江明夫」。国立国会図書館に 37 年間勤務、その後も図書館やアーカイブズの分野で精力的に活動が続け、生涯現役で 2021 年 1 月 29 日に逝去——『書物の世界に生きる 安江明夫著作集』には、50 年以上にわたる彼の著作 239 編（講演録なども含む）が刊行年順に配されています。各巻もれなく 600 ページ超という大部の 3 冊に、書誌と各種索引の別巻付き。図書館、資料保存といった分野に含まれない研究論文や小さなエッセイまで収載され、通読すると、彼の人生に伴走して次々に一緒に課題に挑んでいるような気持ちになって、わくわくします。

が、通読するほど時間はないのが仕事人の常。それならまず別巻をどうぞ。50 音順・ABC 順のトピック索引に並ぶテーマの幅広さをざっと見渡すと、各々の関心に響く箇所がきっとみつかるでしょう。タイトル冒頭の「書物」をキーワードに多彩な活動が繰り広げられた 50 余年の軌跡は、資料保存の教科書的な語彙には収まらず、実はトピック索引自体が味わい深い。どの時期にどんな課題に取り組んだのか、どこを深掘りしたかったのか、何を繰り返して伝えようとしていたのか、などが見えてきます。

彼の活動はそのまま図書館の資料保存の歴史を物語っており、時系列にたどると、「治す」から「防ぐ」へ、劣化対策からマネジメント（保存管理）へ、といった流れが自然と理解できます。ただし同時に、「盲信禁物！！」の声も、行間のそこここから。先達についていくだけでは真の課題解決にはならぬ、と釘を刺された気がしました。先人に学ぶ、いったん疑って自分で考える、そしてあきらめずに行動する——その姿勢はどのトピックでも一貫しています。

印象に残ったのは、90 年代初頭のある座談会での発言「アメリカ人の図書館員が『これから図書館員が世界を動かします』って。みんな笑ったんですが、その人は本気なんです。おびただしい情報があふれる中で（中略）仕事に広がりや深みがあるという点で、今後ますます面白くなる分野だと思います。」 図書館員のみなさん、元気が出ませんか？

なお、本書は彼の公私にわたるパートナー安江（小出）いずみさんによる私家版で、関係者のほか、所縁のあった図書館などに送られています（NDL サーチで確認可能）。多少の余部があるそうです。入手希望の方は books.yasue★gmail.com までご連絡ください（★を@に置き換える）。

（元国立国会図書館 ^{こばやしなおこ} 小林直子）

2023 年度都道府県立図書館の「県」域内市町村立図書館への図書資料の保存の取組－図書館ホームページから 上

－取組を行っている、計画にある「県」－
おにくらまさとし
鬼倉正敏(特定非営利活動法人共同保存
図書館・多摩 事務局員)

1 はじめに

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩(以下、多摩デポと略する)では、全国の都道府県立図書館の県域内市町村立図書館への、図書資料の保存の取組状況を把握することを課題としてきた。

『多摩デポ通信』第 67 号(2024. 4. 21 発行)で、2022 年度の都道府県立図書館の県域内市町村立図書館への図書資料の保存の取組を掲載した(『ネットワーク資料保存』第 136 号 2024.10 発行に転載)。

それに続き 2024 年度後半に、都道府県立図書館(以下「県」と略、また各図書館の都府県・図書館の表記は略)のホームページを閲覧し、計画や 2023 年度の実績等を調べた。一部、それ以前の内容もある。また「『2019 年度(令和元年度)公立図書館における蔵書構成・管理に関する報告書』2020 年 全国公共図書館協議会」(以下、全公報告書と略)も参考にした。

今号(「多摩デポ通信」70 号)「は、取組を行っているか、計画にある「県」、 「多摩デポ通信」71 号(以下次号)で、これまでは計画にある「県」で触れていた新館計画での扱いを取り上げる。

2 取組を行っている「県」

2023 年に取組を行っているのは北海道、埼玉、富山、愛知、三重、滋賀、京都、岡山である。

(1)北海道

北海道は、収集方針が令和 5 年(2023 年)3 月 23 日に改正されたが「8 資料センターとしての役割 道内における資料センターとしての役割を担うため、必要に応じて市町村立図書館等で収集した資料の一部を譲り受け、保存し、利用に供する。」に変更はなかった。また、令和 5 年度策定の「第 4 次北海道立図書館事業推進計画」(令和 5(2023)年度から令和 9(2027)年度)に基づく「北海道立図書館資料収集計画」令和 5 年(2023 年)3 月 23 日 館長決定の「3 寄贈による収集」に「市町村立図書館等の除籍資料の受入れについても、必要性を踏まえて引き続き計画的に取り組む。」とある。

要覧などから、2023 年度の実績は確認できなかった。

(2)埼玉

埼玉県図書館協会公共図書館部会加入館で、「県」が埼玉版 ISBN 総合目録から単館所蔵データを県域内に周知し、各館での分担保存を行っている。

『令和 6 年度要覧』(2024 年 7 月発行)で 2023 年度は、対象機関 112(館・機関・県立)、対象冊数 515,799 冊、(2022 年度 113 館・機関・県、500,443 冊)。

(3)富山

「富山県立図書館資料収集方針」とこれに基づく「富山県立図書館資料センター運用規程」により収集を行っている。『富山県立図書館年報 令和 6 年版(令和 5 年度実績)』(2024 年 6 月発行)で、資料保存のための図書館－図書館は資料の集積活用センターで、令和 5[2023]年度資料収集の概況で「寄贈図書には、町立上市図書館、氷見市立図書館、滑川市立図書館、富山短期大学付属図書館

年度	2020	2021	2022	2023
寄贈図書(A)	3,353	3,521	3,094	3,495
(A)の内、市町村が除籍(B)	248	62	183	263
(B)の内、資料センター収蔵へ	81	19	138	110

等の除籍図書 263 冊が含まれ、うち 110 冊は資料センター収蔵図書として受け入れた。」

表 1 年度別、寄贈図書のうち市町村除籍、それから資料センターへ収蔵数

(4)愛知

『事業年報 2024 年度』(2024 年 11 月発行)で あいちラストワン・プロジェクト「2023 年度は、市町村立図書館において保存が困難とされた 1,651 冊の希少図書の県図書館への搬入を許可し、順次整理」

年度	2020	2021	2022	2023
冊数	2,833	2,763	1,392	1,651

表 2 年度別あいちラストワン・プロジェクトへ搬入許可数

年報の「2023 年度事業の点検・評価及び 2024 年度の事業計画」の「拠点図書館としての継続的かつ計画的な資料収集及び保存」の項に「事業番号 27 あいちラストワン・プロジェクトを運用方法の見直しの検討を行いながら効果的に進めます。【53 再掲】3 ネットワークのハブとなる図書館 (7) 市町村立図書館等への支援」があり「2023 年度 事業

内容及び取組状況 <取組結果>参加館に対して事務処理に関するアンケート調査を実施し、資料保存ガイドラインを改正した。」「2024年度 事業内容 あいちラストワン・プロジェクトを効果的に進めます。」とあり、注目すべきは「参加館に対して事務処理に関するアンケート調査を実施し、資料保存ガイドラインを改正した」とある。

さらに調べたところ、「2023 年度愛知芸術文化センター運営会議図書館専門委員会会議録 2023 年6月 28 日」に

「西川[徹]委員[公募委員]

あいちラストワン・プロジェクトの「ガイドラインの見直し」とは具体的にどのようなものか。

熊澤広域グループ課長補佐

あいちラストワン・プロジェクトについては、国立国会図書館が個人向けデジタル化資料送信サービスを開始したことを踏まえて、ラストワンのガイドラインの一部を変更した。国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスで入手できるようになった資料等は県図書館で精査し、受入可否を個別に判断できるようにした。背景として、市町村立図書館のラストワン対象資料の除籍件数が増えており、これに伴い当館でラストワンとして受入する資料も増大し、当館の書庫等の収容能力に影響を与えている状況がある。

西川委員

あいちラストワン・プロジェクトについては、郷土資料とか、その図書館しか持っていない資料もあるのではないかと。県図書館が最後の砦なので、精査していただいて、ぜひともこれだけは残していきたいという資料についてはしっかり対応していただきたい。」とあり、2023 年 8 月 24 日、『読売新聞オンライン』の記事が掲載された時には決まっていたのである。

(5) 三重

『図書館概要 令和 6 年度』(2024 年 6 月発行)では取組の実績は確認できない。

『三重県立図書館改革実行計画「だれにも図書館」令和 6 年度アクションプログラム』令和 6 [2024]年4月 No.3 書庫の配置見直し 令和6年度の目標：書庫資料の除籍と配置見直しによる書庫の所蔵スペースの拡大

(6) 滋賀

『これからの滋賀県立図書館のあり方 行動計画(後期)』令和 5 年度から 5 年間「将来の県民の利用に向けた資料の保存」項番 40—42 の 42「県の資料保存センターとして、幅広い資料要求に対応」「県全体の利用を見据えた資料保存のあり方について、市町立図書館との検討結果に基づき保存を進める一方、その内容を定期的に見直します。」2023—2027 年度継続実施

『令和 6 年度滋賀県立図書館事業概要』(2024 年 10 月発行)から、資料保存センター機能、市町立図書館の除籍図書移管からの受入 637 冊

年度	2020	2021	2022	2023
冊数	1,174	1,422	721	637

表 3 年度別市町立図書館の除籍図書移管からの受入数

(7) 京都

『事業概要(令和 5 年度のまとめ)』(2024 年 7 月発行)では取組の実績は確認できない。

(8) 岡山

『令和 5 年度 年報』(2024 年 8 月発行)では取組の実績は確認できないが、「令和 5 年度基本方針及び重点事項・組織概要」として、2 重点事項 基本的性格(5)「資料保存センターとしての図書館」として「全ての県民が共有する知的財産として図書館資料を収集、整理、保存し、後世に継承する。県内公共図書館等から移管資料を受け入れ、県域における永続的活用を図る。」とある。

3 計画にある「県」

新館計画で保存を位置付けた千葉、静岡さらに、これに埼玉と群馬が加わった、前文で触れたように、次号で取り上げる。そのほか宮城、福島、福井が計画に挙げているが、その計画の実績は確認できない。

(1) 宮城

『第 4 期宮城県図書館振興基本計画(令和5年度～令和9年度)』(2023 年 3 月発行)の 9「施策の方向性」の 6「幅広い資料の収集と適切な保管」に「これまで取り組んできた「県内最後の1冊」の保存の在り方を含め、「図書館のための図書館」として市町村図書館等に対する資料保存センターの役割や、資料を適切に保存するための書庫の確保についても検討していきます。」とあるが、「主な取組」に位置付けられていない。

『要覧 令和6年度』(2024 年 6 月発行)の「第 4 期宮城県図書館振興基本計画(令和 5 年度～令和 9 年度)における事業実施状況」から、検討結果や実績は確認できない。

(2) 福島

『福島県立図書館要覧 2024(令和 6 年)』(2024 年 8 月 7 日一部修正とあるが当初月次未記載)に「令和 6 年度重点方針」に「市町村(図書館・公民館等)を支える図書館」であるために「資料保存のための分担やデポジットライブラリーに関する他県の状況等を調査します。」とあるが、調査結果は把握できない。

なお、令和 4[2022]年度重点方針に、初出の同文があった。

(3) 福井

『福井県立図書館年報 令和6年度(令和5年度事業実績)』(2024年10月発行)「Ⅰ 令和6年度事業概要」「1 令和6年度運営基本方針」「(2)他機関との連携 県内外の公共図書館や専門機関との連携を強化し、図書館サービスの充実を図ります。」「① 図書館ネットワークの強化、拡大」の3項目のひとつとして「県下で残すべき資料を県立図書館で保存する計画(リポジトリ機能)について検討します。」とある。これは「Ⅰ 令和5年度事業概要 1 令和5年度運営基本方針」に同一の文言があった。

これについて「Ⅱ 令和5[2023]年度事業概要 1 令和5年度の主な取組」にこれの成果の記載は無い。

本原稿は「多摩デポ通信」第70号(2025.2.17)掲載記事から転載させていただきました。転載にあたり多少の訂正・修正がなされています。なお、「下」は本誌140号に転載予定です。

転載を御許可くださいました NPO 法人共同保存図書館・多摩に感謝申し上げます。

NPO 法人共同保存図書館・多摩

<https://www.tamadepo.org/index.html>

多摩デポ通信第70号

<https://www.tamadepo.org/deponews/news70.pdf>

コラム 古文書、地域資料の保存や活用

資料保存委員会には、全国の図書館、団体から資料保存に関するお問い合わせがあります。最近のご質問と委員会からの回答をご紹介します。

Q. 古文書、地域資料の保存や活用について参考のできる図書館を知りたい。

A. 長年の成果を公開している小平市立図書館をご紹介します。同館のこれまでの取組みは Web サイトで参照することができます。

<https://library.kodaira.ed.jp/reference/komonjo.htm>

日本図書館協会から蛭田廣一元館長による関連資料も刊行されています。

『地域資料サービスの実践』補訂版(JLA 図書館実践シリーズ 41) 蛭田廣一著 2023.01

『地域資料サービスの展開』(JLA 図書館実践シリーズ 45) …事例を集めたもの 蛭田廣一編 2021.12

<https://www.jla.or.jp/publications/%e5%9c%b0%e5%9f%9f%e8%b3%87%e6%96%99%e3%82%b5%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b9%e3%81%ae%e5%b1%95%e9%96%8b/>

『地域資料のアーカイブ戦略』(JLA 図書館実践シリーズ 46) 蛭田廣一編 2021.12

<https://www.jla.or.jp/publications/%e5%9c%b0%e5%9f%9f%e8%b3%87%e6%96%99%e3%81%ae%e3%82%a2%e3%83%bc%e3%82%ab%e3%82%a4%e3%83%96%e6%88%a6%e7%95%a5/>

全国公共図書館協議会による調査報告も、ご参考になると思います。

2016年度(平成28年度)公立図書館における地域資料サービスに関する実態調査報告書

<https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/zenkoutou/report/2016/index.html>

2017年度(平成29年度)公立図書館における地域資料サービスに関する報告書

<https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/zenkoutou/report/2017/index.html>

近年では、いろいろな公共図書館のマニュアル等も Web 公開されており、検索対象を文書館や史料館などに広げるとより多くの情報がお探しいただけます。

また、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)の「アーカイブズ実務情報リンクバンク」では、文書館等の資料保存と活用に関する情報を提供しています。

<https://www.jsai.jp/linkbank/index.html>

ネットワーク資料保存 第139号 2025年7月

編集・発行：日本図書館協会 資料保存委員会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14

電話 03-3523-0816 FAX03-3523-0841

URL <http://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/96/Default.aspx>

文章・写真の無断転載はお断りいたします。